

文恭院實紀

二十四

庫	文	閣	内
三二函架	三四册	三六〇六四號	和書類

庫	文	閣	内
四九函架	五五册	三六〇六四號	和書類

寛政十年戊午自正月
至六月

史六。

内閣文庫	
番號	和 36064
冊數	55 (24)
函號	149 36



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



文恭院實紀

寬政十年戊午
從正月
至六月

二十四

文恭院御實紀

二十四

寛政十年正月二十

文恭院御實紀卷二十四

寛政十年正月二十日

寛政十年正月元日諸規式例

三日恒例

五日濱

六日

七日

八日

九日

七日美菜所稅例
信由伊勢代系供
馬去款方補廣之日光

伊豆代系使

大納言激以供を兼祿
物例にかつ

八日東嶽山

嚴有院殿

後明院殿
十日赤嶽山

十一日具足院

大石

能解

奉

十一日具足院

大石

能解

十三日難目ヶ谷筋へゆくとき、所を放多水
く鴨多く捉獲せし

十四日三塚山

又昭院殿書齋より多弾弓大弰忠義代巻
十五日山より社より例平弓多美濃弓類代
巻より方一編巻を一夜に進膳あり西掛
より小例若本内儀正利あり、相友
御信業を能く相覚えあり

十七日石葉山

石官水詣りあり

十八日松平 裁前書重宝有り能く此度所
ふして又之を寄る所なり

二十日赤坂山詣り頭痛氣少なり延滞

あり

大猷院殿

有徳院殿書齋より田来女正氏友代巻より大番

幹木左門義忠彦後省院頭よりふりし
亦一日水部より恩信院鷹揚より授けし
肩をさしきふ所

基跡上りて同じし

亦二日尾郎より肩をとりきりし所恩信の鷹
揚より授けし所より授けし後院も同じし

亦四日赤殿山

孝崇院殿高殿より少老井伊左部より少輔立朗

代系より三孫山

徳成院通ある高泉有馬より少輔彦之日光山
より授けし所日光門主山より授けし所
かえり高泉前因信濃より長祿より授けし所
磨芳
きりし所

亦五日某寺跡ありし西陣へわたりし所

亦六日赤殿山

至心院殿高殿より授けし所例平尾美濃より授けし

代為以籍事以新 在出者事門有自老免
しと事言ふ事流時服を福小

廿七日庚申申案を催ふ事每城能執政奉政
其祝事を免ふ事能能を嵐山巴東北安宅
意主荷葵上船每度祝言正札控言若連在色
持志より法師の母以てあり

廿八日松平能後子京頼系親以縁有所在
岩瀬式於氏紀坂城舟在津田七九郎原福共小

初亥卦信能映中少福物ハ例能事ハ評言
而初字能映中變在武也正方多年勤務心
以事、を言ふ事十首増加あり百五十俵之
口より能新番三浦五郎之能苗鑑同
能映命を流又日門一本月以新能料能能
向々に書事申條河内事信義しと流之
事

廿九日二之縁山

把之禮しにやう支那其以由隊し一歳より多き
より一給より一と病能間もふくそより一
歳より七少元一に何のそ能きも勤り能く
老長を令傳つる所

六日さるし一四日成能なり多村一毎能
士二人信能を給ふ事う去路池田瑞仙善郷
勇能より何様津玉三因能欲多九鬼長門守
陰張病より少教仕しと能より一乞しと能子

仙方即陰能をしと采色三子石を能
少能陰能多そと能長門守能色能男に
名多幸之也又中福之山安永四年十一月
朝日初見一天明五年十一月十四日能封し
号能年十一月十日能能下しと長門守に
任し寛政十年十二月六日能退し同年九月十
一日加賀守に改り事初三年九月十三日能心
齋と号し文政四年七月十六日能能よりと

七十五年来山を幸しきりて終日水部之供
下りて春能鴨を法りて下りて春能鴨を
老臣の海を幸しきりて終日水部之供
紀法と実頌松平後法と松原つ目と馬は
のりて
七日松平伊豆と信明を幸しきりて終日水部之供
下りて春能鴨を法りて下りて春能鴨を
兼首の供と信明を幸しきりて終日水部之供

神事の上りて
八日松原山
法殿より詣あり
九日先年同族岩屋一石見と西偏新入番の法
下りて春能鴨を法りて下りて春能鴨を
何れ同一事心の通りにて今今金財法を
知元事り石川左と松原中房地事能なり
神保佐渡と長光月日少長を法能と政其聖廟

再建院事ノ事ハ不申ト云々ハ後因
掛津宮西敷ニ夏ノ事ト云々ハ後因
合山ノ事ト云々ハ西虎ノ事ト云々ハ後因
出立ノ事ト云々ハ西虎ノ事ト云々ハ後因
又再建院事ト云々ハ不申ト云々ハ後因
西敷ノ事ト云々ハ不申ト云々ハ後因

十日書院番殘田程ノ事ト云々ハ西郡ノ事ト云々ハ後因
包明老免ト云々ハ不申ト云々ハ後因

十二日ニ臨山

博信院殿高廟子安藤新馬ノ修成代参事

十四日大目付松浦越前守修程宗事
後山ノ事ト云々ハ不申ト云々ハ後因
又祿子石能祿清ノ事ト云々ハ不申ト云々ハ後因

十五日月次能相賀例能事ト云々ハ不申ト云々ハ後因
又其ノ事ト云々ハ不申ト云々ハ後因
ノ柳原母懐ノ事ト云々ハ不申ト云々ハ後因

社家此と云うる果は相愛の道に同し右番院
建部内匠院政隆成聖皇政と長致たりし
年歳もて、預見は昭然也生九回し相平
加賀と法僧禪供しては摩訶鶴編りしを
御幸家

十六日連歌沙里村留迄より暇を以て御相
行りて他連歌に加りし一筆をのしりし
編り

十七日紅葉山

御堂より安蘇對馬守信成代系は先手尚院少野
次良右衛門也茲に権事むりしは
十八日吹上り成りて一橋邸へ過りて
大綱云殿少の因安門外より飯田街此をより
あそびたりて下りて日邸へ立ちて
編り

十九日少一人多意深石部門資武老免一
小普徳より後生を物ふこの口信信師
之のあつて暇あふその多し

二十日赤嶽山

兼松院殿に講所つた例海井信及ち也
代各は高家戸田少佐と氏用京地より
宿は初元既居松屋高島中道多年音実
に精勤す終いとも五十芭増加をす終七信依

高みより承りし今をりあつて来目百三河

園大樹寺

道幹君二百五十四回忌より同日三言より
法會ありてそのうち立合多ふ例終極
その他に慶き終堂祭音楽祭祀法會を
止ふよおより終いあり
亦一日瀨越庭園に成りて終い鷹を
狩りては右門終い高野民新々高教々

陪况をり控鴨を雀を控得らるるに家此
うりくくくくくくくくくくくくくくくく
里くくくくくくくくくくくくくくくく
大納言殿よりいふ書をやさし家
井二日将首よりいふ例海井位はより
代糸す太刀馬込の進薦ありくくくく
海くくくくくくくくくくくくくくくく
各白心能はくくくくくくくくくくく

井三日し里くくくくくくくくくくく
二人時旅を御ふ

廿四日赤嶽山

孝恭院殿高殿より左田御中より
松平伊賀守より溜三河能玉大樹より
代糸西様
大納言殿より候も書より賜物金十枚時ふ

五羽後より

廿五日紅葉山より

若憲院殿

有徳院殿お遷座事より行く所の控邊河を日門
はうふはりのうふ

廿六日赤飯山

五心院殿意牌より本多弾正右衛門忠房代系

廿七日西城山細戸

廿七日西城山細戸此所取吉川能定守境切を

本城にうりお水一後に准一を取右右を

清定ハ西城山細戸此所取より

廿八日月次の佳美係此如一松平能定守境

より親封此より後を自り取より三人日門

より山城権左を執せらる

三十日この日男水子生後より世をより

おうり此より養目ハ山城根来内膳西長郷

夫取之其子孫之途長喬台此乃古宮村丹後系
矣直實年之系日光山觀音院亮實
寺堂列帝殿命之

三月朔日其終乃以生誕より三系終のり
以仗一湯詰高家唐回詰詰番院詰物詰布衣
以上終詰殿向の終あり祝したる返詰系山普
詰より右番入りの三人

二日一除右左長史良右系府はりの要原宮馬

信成一々磨芳々系高家戸田之侍与氏剛
之出々冬隊右目付桑原伊豫与盛貞西棟
留守居之系系以是廉朱之常終向山下
三月推其終佳係規終之
勅供

院使者府少より左田系女正氏其以仗一高
系少角裁系少唐考之以之系系

四日父死して家内くは家人七人

五日白本書カ白院一書を海山

勅使引見ありて條考大臣正良に勅諭ありて
細之経途々々移書中細之有政々

院使梅少政中細之定福々々對面あり衆々
能之祝々々々

禁裏より芳書之條

仙洞よりありし々々或條

中官より一條

大綱之條つまありし々々頃々々々

門路勾當内侍能之使者條々々々一條右大臣

正良公に送院を乞ふ一太刀編緬十卷類一見之

多々海のありその他より能之由樂人二拜帽

末廣河々々々系々々々々々々々々々

高家公島立於左補産之の供一々右大臣

中々良公旅彼々々鶴々々々々々々々

大細を殿より出給ふ一伊豫玉安長は産衣
一ま一移子足は供水野出物も中友幸の
産のうらうらを綿辛抱は産衣一ま一移
子足淑姫君より産衣一ま一移子足敷
銀眼君より一移子足の外より伊豆
出物も中友幸の供せしもの中友幸
十一日白木書院より出給ふは公
返詞はくは於歸一途の暇を以て
勤修す

前大細を給送の事様前中細は有返つを
銀二百枚綿百把
大細を殿より銀百枚梅路中細は之を福
お外しくも枚百把
大細を殿より五千枚その他持品門跡の供者
一人冠帽赤産衣をのりぬき手紙
差あり一條右大臣中良右衛門
左田備中守彦光
供し給途は暇あり銀百枚綿

五百把を以てのし流西條より川の北野に出る
此友高家戸田少佐と氏用あり御和の報
二百枚綿一五把
此巻ふりりハ内ふく十動巻と要ね手控巻門
時ふく十梅少政巻門ハあり

十二日三篠山
侍候院殿雲禰少松よ伊豆子位用代巻す
初毛米田少左巻候式一橋邸御巻ハとふ候

十三日
初候
院使府を發以少松日大番より新番にうつ候
その十四人

十四日
十五日
治書下封玉能候巻より以治書巻應より
少左巻あり巻馬を下り候松正紀あり治茂

十八日吹上乃庭園山成りててて終るれり
田安郡一りりててて寺社多し移年
有京之形輝和当り長約本根左日記政永
小普請事切程り漢政り修り目付新尺
長門与山登修久間左京信近明張丹
水基所東廬山以詣能事り事系了り命
きり家

十九日左田院ふりり小集りてて終るれり

きりてて維子九羽投りふ又若十の所持り
以獲物ありて是也其等事程目志りてて若
二を得多りりり一條ありて長り有る
叢以りり中川修理方丈久持有りり終るり
老臣小福一退りり三河能島島村領多りり
尤近持管氏興率りり嗣子ふまにりり終るり
以りり大浦後戸田古學中境りり一學子氏有
をりりりり送銀一万石を張りりりり

氏興の故法政の氏養の子あり天明五年
六月廿四日法政寛政元年十月十五日
初見したる西の事あり一年十二月
ありて左道法政と改元一月二年
田安門の成より一とし西の廿七日
ありてよりきぬあり

井日杉は伊勢の東海三河の至大樹寺あり
ありては福す供養高力平八夜五道あり今

火災巡視能水野の物中晋と云に先子角
路あり

十一月甲寅能事あり水野の樓子中道大坂
能町ありと云あり入真能事人暇下と能
時拓を拓りし法合讀と云ありありの
ありし

左網を殿よりも能事ありのきり通羽能者
根子をきり

亦二日六日此日学校中一子年教育能ト
命キテ河、事ナリ

亦二日高野明王院唐碩学トシテ

亦四日赤嶽山

孝恭院殿高僧ヲ依田持法トシテ教代

各ナリ

亦六日小細戸依田平左衛門政信西塔ナリ

一ツ法泉

亦七日三輪山

台塔院殿

法揚院殿

桂昌院殿雪齋院修堂修事ノ事ナリト作事

修事トシテ神保修後ト長光目目小長若修堂ト

改良初迄吟味役三橋高徳ト成方を修シ

金明池を修シ高僧ト修物差ナリト事ナリト

申東ナリト老臣トシテ歎嘆ナリト修修ト西栖

七跡 鹿六浦花舟求墳舍利梅枝融釋云
小夷昆沙門又我子益人門上座路修渡瓶
形

亦八日鏡姫君出能本堂病外しき海
うりふ已刻まかりまうきなるはぬき音
三日候免りぬり

所

甚能上長

大納之殿

廿九日

教世子供

諸物於布衣以上

うらふ

晦日鏡姫君

方未刻

常力利惠

きくは先手弓矢加藤玄蕃別陳捕盜の事
免す家

四月朔日自内次お受あし少く風能吹く
あし少くは表より出るはうきをのく高老
小福して退く井上言政と西紀能對能
はききふ甲府能和番支配在平内能允
位成場物にきき三枚時ふく三羽隊そく初
却任能くは後きふ以教書しき主計能と改

武佐渡能年日珍本新吉西義能十枚時能
三より隊在場あしく暇きふ以日付渡字
久能礼使番大河内善之助改書初乞味
後三橋能石河内成方信和安表能事一
川よりてははききふ下屋能能更もおし
二日三橋山能玉院殿法書にうり例
是家伊能と四送
大納言殿代名は又は多右曲淵甲能と宗漸

さし許政復送の事命さる所
七日日光門を登山ありし言家後田主計既
信由は彼しき時能知をさるるを信保番
少管格右衛門正家大炊巡視此事も兼ぬし
めり御奏者番少立系信後と共亮しき上杉
彈正大弼治廣親父大炊路重定之卒きし
より祭奠ありて報卒院法りし所
八日赤嶽山

後明院殿雲麻子戸田東女正氏女代各以
高家中原河内守信義日光山
所定代各以
大納言殿以信兼ぬ家より新阿弥播磨守
西由
大猷院殿雲麻代各以兼川多於少輔俊知
海井右京亮中蓋おしき祭祀事より兼り
ら能暇をふらぬ物ハ多時よりあり日光門を

登山ふりり南り能ふる能は管應をそそ出る
西なり

十二日三強山

博信院殿雲廟小安蘇對馬守信成代守
十三日一橋民於下高敷口嶋子燈子代君守
此

公能成ふ能く尾張右細言宗睦公養子の
事作出され淑姫君よもあふく入奥何事し

とふりやう法合能とそかふ一美三女能間
山と老臣に能き侍小右細言宗睦公の松平
伊豆守信母に能く一記伊水戸守部民於下
高敷の事をもくそ能事目めしてはくつと能
くみより百り能ふる能病に年々能まき伊豆守
信明少老立能出せやうと程周る能事目取し
と能きと能
十五年日月以能能事し一松平忠後守齊室有馬

中務左輔新美佐州右京右史義和松平之強外
高政也一也希親十六人愷子代君漸娘君の事
以之其譜等此下名高家層能問語父子奉考
苗彙此問縁語語皆此語語物語語布衣語
單語乃不也希不羅浮寺乃不也少也成
也之語語等放多語之語復物語語之語
五位之相也少

十七日お素山

所宜以語而之之延之氣也之松平伊豆守
信明代希以高家六角裁也之廣孝日光
所宜正正宜代希供也之之大方因播守
義方
雲麻正正以代希供也之之に
大御言殿以使也之也之之持眼等之編物也
其時少く也少
十八日松平伊藤与治好松平河波与治眼松平

右様守治道細川紙中事多茲松平左和守
直臣松平大膳左衛門齊房松平出雲守利通
左衛門右衛門松平左衛門佐五右衛門
就書此と南を方いふその三十七人伊達通守
村青島親水 柳澤金吾光被初見一考
て、西の品伊達鶴三取移民封裝一是之を
歎くその一と西御一考
二十日東嶽山

大猷院殿并ふ

心観院殿

深徳院殿

至心院殿雲脚不水諸あり高家中原河内守

信義院殿松平あり森川多治少輔俊成

海井右京之右中蓋日光山より之り福江

亦四日東嶽山

孝恭院殿雲脚不水出雲守利通

阿於播磨古西由日光山より之り濁以初乞
大休劫古部門修年老免く小普請より家
産銀を考ふ

亦五日幸り今久保因依渡り政邦子山姓形
新之並義知川務權之由隆中子登之由
隆幸右内我世光為子主水走一之の
父致仕しそ子取はくその十人依渡り政邦
長光能料二名色考多由ふ

廿七日陸奥玉一関能多田村左京右史村資病
少少宗家松平政重代請ふ由り致仕考
めり能依地之百石ハ多能長子紀三郎宗顯ハ
族よりり取少能村資病考松平陸奥守の
取臣伊豆式部村長子少り考右京右史村隆
之長子よりり安永七年十一月十五日初尺能
禮考より天明二年二月廿九日封を致す考其
考知貴し右京右史より新より自り二年四月初

之暇より語門能遊園 庵幸より其暇
伴を乞ふ事も能く不致すし之能く文化
五年十一月廿九日申下し其先
尚既戸川主藤村真病免して其先
其間弘法と日持池上本門と住職とあり
也

亦八日其次の御契例の如し 松平伊豆守信明
日光山に於て暇を乞ふ事も能く不致すし其先

伽羅一本を乞ふ
大綱云殿

養子少十人格庭番富三郎信實又其後七
友省に在りて其二右道下下連親務と能く
能く其先ありしとあり

廿九日三海山

有章院殿靈廟より訪行り

五月朔日恒子代君表子終事し仕出さ終り

ふより尾張左細三宗勝より語り終ふ終太刀

馬須浪巻物二十就き終り對面あり終り

終り終り斗一蛇を治る終り恒子代君を頼り

彈心左彌勝備へ終り申す終り終り終り

ふより水戸中細三治保り及世子より終り

終り終り終り對面あり終り終り終り終り終り

多し海のふ井仰掃り終り終り終り終り終り

就書の際多し終り終り馬を下り終り太田備中

資電の供へ終り大細三宗勝の報二十終り終り

手画恒子代君巻物十二終り終り終り終り

おえらき終り

大細三敬より水野生相より終り終り終り終り

一着

臺帳ノ二種迄及淋娘名帳ナリ一様子三
所供ノ廣安月人中山歩門古伝様ナリ怪文代
致ス
寺臺所ナリ少巻物二様子三重聴尾ノ
寺所ナリ二様子三
大綱云殿
寺臺所ナリ一様子三淋娘名帳ナリ一様子ナリ
所供ノ目ノ尾豆和怪文代致重聴尾ナリ供送

賜物ありしを御一寺家又尾郎ナリ
寺臺所一巻物十一様子三淋娘名帳ナリ巻物
五一様子三怪文代致ナリ
巻物上ノ巻物十二様子三重聴尾虎^地ナリ
基所上ノ一様子三淋娘名帳一様子三ナリ
田村紀三ノ宗頭家様ニ御一寺物等奉奏者
番書寺社等ノ板倉因坊寺様致病ナリ寺社
寺々ノ寺免ナリ^{呈請四月}寺様日品川津ナリ録

上京長九間寺天高一丈餘あり武江年表

二日端午端事祝す三象能か

例能面々毎本社寺社仕相平上強介重豪者

内社を多々海の御

大綱を教一山抄

三日濱越危國不成元代

紀明子郷助安貞父不添て遠き

未しを主と止故をゆ乃

一方外より孝養能有

ゆし出されし福

四日大板乃所幸山口丹波

五猪西坪少納戸島

福徳を父

し教自能獲風

山録

二日代友大貫治建白

清和山院

有德院殿

海明院殿

孝恭院殿

心觀院殿

澄明院殿

葉基院殿

寺基院殿

其堂
清和山院用人中山長門守信隆
編子十友綿三十一把二種
西峰山姓
九人

十一日那須
臨公澄
所基

一着就らぬ

十二日三郎山

淳信院殿高廟より戸田島女正氏表代参り
狭地方井上左衛門前領より此録合行
大角町打等能事ありに終子より能
出精を賞より能時服を御ふ

十三日日光山

浄室

靈廟修復あり去りし七日九日

正丘堂

西迄産湯みしより後しより二家能あり
右に女群臣皆少仕ありて者老に福後

十四日三郎山

又所院殿高廟より太田傷中と淡雲代参り
白木書院より少者は此布衣以上乃面より合
布衣以下諸番能士より少者諸能より

百々民技此段人少布衣以上能面く、海及
物を下さ籠布衣以下番士小普請能人、古
布帛二反片、之字多小奏者番水野幸政等
忠節よく松平お掬と治道能病を尋問さ
ふ所

十五日有取の相模倒り、之より少時終審所
巨勢日向守利和紀伊國へ移り供家より籠
金十枚下さ籠暇をふ松平伊豆守信明日光

山より少時謂は籠中守定信松平筑前守
高廣より、之三人就封能暇なきふ、籠中守定信
筑前守高廣より、馬を下さ、又松平少将守
信重より、之各親三人、水井友吉尚佐より、之
尺え多と、留り、之三條立番の右番、跡込、後、傷、等、
嵐富成、役、を、之、物、謂、は、之、所、番、士、が、日、回、り、
仙洞、附、安、於、波、河、守、信、富、依、渡、幸、次、朝、比、奈
治、左、衛、門、昌、祐、各、謂、は、

十六日依渡路車の朝比奈治左衛門昌祐
長壽路車坊山は信長治門右衛門信長直臣
一河例車坊大和守泰行とて松平お授と治道
松平治道車馬磨きと西林とて同し松平
伊豆守信明とて
寺基所跡赤塚山の事なりしとて白偏子
此稿をみよ

十七日紅葉山

寺堂堂殿は諸面よりとてふし松平伊豆守
信明代系すと高家と角越と彦彦大友
丹播と義方日光山とて少得と治道諸臣
高田と測晴弘妹と松春と奔とをとお角
つと松慶と諸藩とて不調治とて西藩を
憚りしとて少とて
十八日松平お授と治道とて松平
植村治河と家長とて其子銀之進とて

亦六日日光門より往りて乃ち提議對面あり
松平伊豆守信明日光山にて御座り候
御座り候
臺座堂築物修葺ありしに少くも
儀前の玉守次郎の力を下し候はる那波の
一人の暇を留り

亦八日松平加賀守治備より方々遊覽ありしに
奏者番松村後河守家長より御座り候

高家芳田信濃守長孫より一日月形
禱料銀百枚を法ふに候
亦九日吹上より騎射法見あり

晦日三塚山

有孝院殿雪齋より太田備中守資忠代番に
奏者番松平月防より康宅神社の事あり候
仙洞附安部後河守信高より人形の取柄本

初一日先大乗院別當後本福寺入院
以又尾郎一少供一以菓齋を献す
二日天地丸一古き一籠是浦呂門能一成ら
き一籠一籠を以受一何一新番猪安多厨一正於
細工路一と一遊
三日結城江隆寺一之一樹赤坊上寺伴法全海
之一不一修一後一命一と一遊
四日目付森川主膳俊甲一先一能一事一山一と一遊

小姓山田渡政一利結留一与居番一と一遊
戸川大學達一肯一院一と一遊一日一又一遊一
家一之一以一家一人一六一人

六日之用一不一入一里一と一遊一海一詰一高一家一層一菓一法一所
奏一者一番一西一能一少一と一遊一大一番一長一谷一川一高一子一即一西一計一山一下
三一四一即一長一山一善一徳一長一谷一川一高一子一即一西一計一山一下
座一三一即一義一學一西一城一網一戸一と一遊一日一山一至一
以一隆一策一切一少一と一遊一西一迂一宣一少一と一遊一代一希一と一遊

寺社名目録坂法海寺安養寺等々令之取せ違

薦きり海

七日日光門多供々々然普々々々是中法々

之礼うか々々海増上寺方丈おれ々々供々々

鮮花供所供々々々海海海海海海海海海

八日東叡山

後明院殿高々殿々安養對馬寺信明儀系以々々

御系山

第壹院殿

有場院殿高々殿々西庭高々々々高々高々高々

虫等儀系以

九日東叡山

淨因院殿高々牌所々々高々高々高々高々高々高々

以又御系山

兩殿西庭高々供養々々々々安養對馬寺信系代

系以淺高々高々高々高々本山彌右高々高々裏門

切手番新隊とて、終戦後、精研多終は、五
十億増強の責務、二億億富み外、之、以、取
十日、紅、紫、山

支那、西、北、産、品、之、一、以、之、高、家、中、除、河、内、之、信
義、以、供、之、日、先、門、主、小、銀、百、枚、二、種、爲、お、ら
き、ら、取、回、し、事、以、之、日、門、供、之、終、戦、後、之、事、取
火、消、役、米、津、山、右、吏、田、將

仙、洞、洞、之、少、火、消、役、米、津、山、右、吏、田、將

終、戦、後、少、事、令、火、災、祝、祝、幸、り、し、花、房、之、吉、吉

西、應、大、島、之、八、義、和、之、其、仁、火、消、役、と、外、取

十、一、日、上、杉、弾、石、大、磯、治、廣、海、井、修、理、之、吏、忠、實

柳、宗、式、於、右、補、政、亦、有、於、右、後、之、吏、利、敬、之、し、め

系、親、此、之、終、十、以、人

十、二、日、三、島、山

淳、信、院、殿、之、皇、后、小、以、積、取、り

十、三、日、臨、時、期、會、少、終、小、右、吏、大、吏、齊、賢、臣、井

左衛門尉忠徳右之助 宛書乃之 後多由を以てその
二十一人 右京大夫高賢 左衛門尉忠徳阿部
甲斐守戸備本多中務左輔忠頼 山崎下之助
相平紀俊 守実 頼孫 為之 西之 一 母之 多之 山崎
俊春 永井 伊織 直 堯 日光 山崎 帰 福 又 初之
み之 幸 山崎 之 山崎 井上 隆 理 山崎 池田 百 西
杉 切 長 子 主 水 先 子 山崎 彦 板 丸 山崎 長 子
山崎 直 彦 山崎 山崎 他 之 多 之 山崎 山崎

十四日 一橋邸 家司 飯田 能登 守 易 信 海 原 貞
山崎 殿 攝 送 能 事 幸 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎
又 同 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎
反 政 卷 物 三 頁 右 筆 二 人 七 編 物 山崎 山崎 山崎
山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎
十五日 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎
山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎
山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎
山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎

抗既しき神樂を以て復還して例皇於因幡
長安以供して中時尋とて日光門
に橋を一筋造る事あり又供番小菅橋石西門
西宮以供して増上の方丈より給して橋
を造る事あり
十六日新祥以夜祝北より
十七日新祥山

中宮小左田采女正氏代案以日門より供

寺より新儀根を就きし

十九日阿弥播磨より由土屋信馬より

取聖肉儀西康儀奉者番より皆尾郎

より巢雀鷄二振を以て事あり

二十日赤嶽山

有徳院殿志麻呂語す事あり

より戸田采女正氏代案以

亦百上野於國守於山城より戸田因幡

中意病より少致仕ししを能く領出七百
七千八百五十石を以て能く登中意
継りしめり少致仕中意ハ越前守中意
川より見能登中意より嗣子より少
四年六月朔日、初見ししを少七月廿五日
家法より能く間形小あり能く安國
城小佳しと能く各教書しし情より改め七年
十二月、美濃守の事より安永三年六月

美濃城より今能く地より少四
後内院殿日光少社各の事能く
城の事より能く同日一年五月、所
城内及城下火災行りし事能く
能く特旨より金五千両、能く
城より少あり同日一年四月、十五
少羽折、能く少あり同日一年四月、十五
所盤下、能く少あり同日一年四月、十五

及家士等はみえきりしは、
希袋原三幅對^{雷舟}、即、
のどれも其由、無^一、
う系同一年六月五日、
二年九月十日、
初一日、
主^一、
十百所、

小行しき、
七年十二月、
當^一、
あ^一、
其^一、
あ^一、
少^一、
取^一、

日光

所定西正堂

雲廊西正堂のとき彼山を築き漸く一日

清きし西に致仕一回十三年正月晦日

由りし由未三十三

亦二日日光山

所定

雲廊西正堂のとき彼山を築き漸く一日

左近將監忠房時少く三件事の事は井上

美濃と利恭と十枚更小金三枚時少く三日光

事は有田播磨と貞徳と十枚目月初務の事

森川主膳俊尹十枚更に二枚供番と井伊強

直亮十枚初定以来後能因十枚刻間板十枚

法更しと少く三枚少くおとす所の変更

以多御西正堂物差行り更右筆二人七枚二枚

法多事少く初定平岩次郎と因親中と浅草原

終事奉り奉る

廿四日赤坂山

孝恭院殿皇廟又井伊多於少輔左朗儀系

以西城目月大守大次郎公美本城小う侍少

使番永井伊織直亮西城目月と少伊織

直亮親貞と改出小十人澤仁左衛門之亮

老免と少小普請と外御座を編ふ

廿五日輝午に於此就里一取之兩本務業に

いふ函内書きたるふ西城より多事書を

いふ函

亦六日招平伊豆と信明日光山修業の事司り

一を重く以て惣旨にうの首蒲皮を多し招平

大膳方吏官自房有馬中務左輔秋吉の光山

御言

雲原照後終事と語ふと終業旨を考ふと

廿七日寅合久世三四郎廣孝の末十三郎補綴

〇〇〇に火災巡視致さる所
 亦九日因幡國多可郡主松平因幡守治道卒
 幸し其子根之進小造之領三十二万五千石を治り
 〇〇〇能治道〇〇〇能相掾重寛男〇〇〇
 天明三年卯辰其の年十月四日發封同日
 十五日卯辰其の年四月十九日淺草火防火
 事少同四集正月廿百堂中して元後堀下四位
 侍堀子任し其右掾少任し同五七每集東叡山



火防の事幸りり同十集五月十五日卒以集



此書乃... 皇... 御... 宣... 旨... 奉... 行... 事... 宜... 慎... 勿... 違... 誤... 謹... 此... 奉... 聞... 謹... 啟...



